

Aコープかわち店の経営状況と今後について

令和7年7月19日
JAひろしま三次地域 説明会資料



JA全農Aコープ(株)

目次

- | | | |
|-----------------------|------|---|
| 1. JA全農Aコープの概要 | ・・・P | 3 |
| 2. JA全農Aコープの沿革 | ・・・P | 4 |
| 3. Aコープ事業会社化・経営一体化の趣旨 | ・・・P | 5 |
| 4. Aコープかわち店について | ・・・P | 6 |



1. JA全農Aコープの概要（令和7年3月31日現在）

- (1) 設立 : 平成6年4月1日
(2) 社名 : JA全農Aコープ株式会社
(3) 所在地 : 横浜市港北区新横浜三丁目2番3号
(4) 資本金 : 5千万円（全国農業協同組合連合会が100%保有）
(5) 店舗数 : 162店

中四国事業本部店舗（64店舗）		
業態	店舗数	県別内訳
Aコープ	56	島根21、岡山5、広島15、愛媛15
ファミリーマートAコープ	5	島根2、広島2、愛媛1
水産テナント	3	広島3

- (7) 役員数 : 19名（取締役15名、監査役4名）
※うち、常勤役員は取締役9名、監査役2名
(8) 従業員数 : 4,100名（令和6年4月1日現在）
(9) 売上高 : 令和6年度 105,100百万円（収益認識会計基準）



2. JA全農Aコープの沿革

- 平成 6年 9月 株式会社Aコープ広島設立
- 平成10年 8月 株式会社エーコープ岡山設立
- 平成11年10月 株式会社エーコープしまね設立
- 平成13年 4月 株式会社エーコープえひめ設立
- 平成15年 4月 株式会社Aコープ広島経営一体化
10月 株式会社エーコープしまね、株式会社エーコープ岡山経営一体化
- 平成18年 4月 株式会社エーコープえひめ経営一体化
- 平成19年 4月 株式会社Aコープ広島、株式会社エーコープしまね、株式会社エーコープ岡山の三社合併により、株式会社Aコープ中国が発足（56店舗）
- 平成23年 4月 株式会社Aコープ中国と株式会社エーコープえひめが合併し、株式会社Aコープ西日本が発足（74店舗）
- 平成26年 5月 ファミリーマートAコープ1号店出店（いよ店）
6月 水産テナント1号店出店（とれたて元気市）
12月 宅配クック1号店出店（とべ店（現在は閉店））
- 平成30年 7月 西日本豪雨により5店舗被災（うち4店舗は閉店）
- 令和 2年 2月 JA鳥取中央4店舗の事業移管受入（78店舗）
- 令和 2年11月 Aコープファーマーズみやうち出店
- 令和 4年 4月 全農100%子会社化
- 令和 5年 9月
～ JA鳥取中央より移管された4店舗を順次閉店
- 令和 6年 3月
- 令和 6年 4月 株式会社Aコープ西日本、株式会社エーコープ近畿、株式会社Aコープ東日本が合併し、JA全農Aコープ株式会社を組成
- 令和 6年 9月 JA広島ゆたか3店舗の受託契約解除、宅配クック2店舗を営業譲渡
-



3. Aコープ事業会社化・経営一体化の趣旨

- (1) AコープはJAの生活事業であるが、JAによる店舗運営・経営、連合会による商品供給のスキームでは、迅速な運営改革や低コスト化、人事の活性化等が課題となっていた。
- (2) このため、より専門化し、効率的な事業運営を行うことを目的に、平成6年～13年にかけて、各県域で店舗・本部が一体となったAコープ会社を組成した。
- (3) 会社組成当初は過渡的に、運営と経営管理機能を受託する形態であったが、大店立地法施行（平成12年6月）による競合店の出店加速化を契機に、平成15年～18年にかけて、各社が経営一体化に移行した。
- (4) 会社化・経営一体化以降も、Aコープ事業の維持・拡大のために、JA・会社間の運営協議会や店舗利用者懇談会を継続し、双方の連携強化、組合員の意思反映等に努めている。



4. Aコープかわち店について

(1) 業績推移

単位：百万円・人

科目	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
										実績	H27対比
売上高	157	145	127	121	113	111	91	82	76	70	44.6%
粗利益高	39	34	29	27	23	24	19	18	15	13	33.3%
粗利益率	24.8%	23.4%	22.8%	22.3%	20.3%	22.3%	21.4%	22.2%	19.9%	19.5%	▲5.3%
販売費	2	2	2	2	1	1	0.7	0.5	1	1	50.0%
人件費	24	23	16	14	15	11	11	10	8	8	33.3%
その他一般管理費	14	13	14	13	14	11	11	10	13	12	85.7%
(内減価償却費)	1	1	2	2	2	1	0.8	0	0	0	0.0%
営業費用計	40	38	32	29	30	23	23	21	21	21	52.5%
営業利益	▲3	▲4	▲2	▲3	▲6	▲0.4	▲5	▲4	▲6	▲8	▲5
平均客数	253	248	223	210	199	184	182	162	149	140	55.3%
備考			店長兼務 水原鏡子				とくし丸 稼働 日曜日 休業	営業時間 変更			



JA全農Aコープ(株)

4. Aコープかわち店について

(2) 直近10年度の傾向

ア. 売上高は人口減少に伴う客数減少や競合店出店、店舗運営の見直しに伴い、R6/H27比で**44.5%**まで減少している。

① 1次商圈（1km）の人口推移：2015年対比で83.3%（▲121人）



4. Aコープかわち店について

(2) 直近10年度の傾向

イ. 競合店の出店状況

店名	出店年月	備考
ゆめ마트三次東店	H25.10	
ダイレックス三次東店	H27.9	
コスモス十日市店	H27.10	
藤三 吉田店	H29.7	
マルショク 三次店	R5.7	
フレスタ三次プラザ店	R5.12	
ウオンツ三次プラザ店	R5.12	
藤三 三次店	R6.9	ビッグハウスから業態転換



4. Aコープかわち店について

(2) 直近10年度の傾向

- イ. 売上高減少により、粗利益額はR6/H27比で**33.3%**まで減少した。
- ウ. 利益減少に伴い費用削減をすすめたが、**最低賃金の上昇**や**物流費の高騰**により、利益減少をカバーするだけの削減に至っていない。
- エ. 令和3年に川地地域一部において、とくし丸での移動販売を開始した。
- オ. 令和4年2月のJA三次西支店総代集会で、かわち店の厳しい経営概況を報告した。
- カ. Aコープかわち店は直近10年で**▲40百万円以上の累積赤字**を計上している。



4. Aコープかわち店について

(3) これまでに講じた主な売上対策

ア. チラシ折込販促（～平成28年）

精肉は親子店舗方式、水産は自店加工で対応

イ. カード会員ポイントサービスデーの実施

月曜日ポイント5倍デー

第1月曜日はポイント10倍デー

ウ. 鮮魚産地直送店頭販売（～平成28年）

毎週金曜日に浜田港から当日仕入の魚を午後から店頭販売

平均売上約**100千円**

エ. ふるさと祭（11月）葉ボタン祭（12月）への出店（～令和2年）

青果・水産で約**200千円**の売上



4. Aコープかわち店について

(3) これまでに講じた主なコスト削減対策

ア. 店長は他店舗店長が兼務、水産部門親子店舗

平成29年からみわ店、平成30年からは向原店店長を兼務とした。

水産部門は自店加工を廃止し、みらさか店からの親子店舗方式とした。

イ. 店休日および営業時間の変更

令和3年から日曜日を休業とし、令和4年から営業時間を

9:30~19:00⇒10:00~18:30に変更した。

ウ. チラシ新聞折込廃止

チラシ折込を廃止し、チラシ制作料・新聞折込料を削減している。

(約1,100千円)

自店で作成した1週間チラシを店内へ掲示し販売促進を図っている。併せて月間曜日サービスも実施している。



4. Aコープかわち店について

(1) 令和7年度計画と令和8～11年度見込み

単位：百万円(客単価のみ円)、人

科目	R6実績	R7		R8		R9		R10		R11	
		見込み	前年比	見込み	前年比	見込み	前年比	見込み	前年比	見込み	前年比
売上高	70	72	103%	70	97.2%	68	97.1%	65	95.5%	63	96.9%
粗利益	13	15	115%	14	93.3%	14	95.7%	13	92.8%	12	98.8%
粗利益率	19.6%	21.0%	+0.7%	20.8%	-0.2%	20.5%	-0.3%	20.0%	-0.5%	20.0%	0%
販売費	1	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1	98.8%
人件費	8	8	114%	8	103%	9	103%	9	103%	9	103%
その他一般管理費	12	13	100%	13	100%	13	100%	13	100%	13	100%
(うち減価償却費)	0	0	0.0%	0	-	0	-	0	-	0	-
営業費用合計	21	21	105%	22	104.7%	23	104.5%	23	100.1%	23	100.3%
営業利益	▲8	▲8		▲10	▲2	▲11	▲1	▲12	▲1	▲13	▲1
平均客数	140	138	98.5%	135	97.8%	130	96.2%	125	96.1%	120	96.0%



4. Aコープかわち店について

(2) 将来方向性

ア. 今後も人口の減少および大型店やドラッグストアとの競合により、売上増加は見込めない。

イ. 令和7年度はロス管理の徹底や仕入改善により粗利益率の改善を見込むが、売上高の減少にともない粗利益額は漸減傾向となる。

ウ. 生鮮部門の親子店舗方式、店長を向原店兼務等により労働時間（人件費）の削減を図ってきた（1日あたり3名、23労働時間）が、今以上の削減は難しい。

エ. ショーケースは平成26年のみよし店改装時に同店から移設したが、当初の設置からはすでに20年が経過している。設備更新が必要となった場合は1千万円以上の投資となり、その回収は見込めない。また、故障時の修繕が不可能となり、営業停止とせざるを得ない可能性もある。

オ. これらのことから、Aコープ店舗としての存続は厳しく、店舗閉鎖（JAへの施設返還）とさせていただきたい。



JA全農Aコープ(株)